

## ニューヨーク、グランドセントラル駅にて「ジャパンウィーク」開催

蟬本 睦

3月8日(水)～10日(金)の3日間、ニューヨーク市の交通の要衝、グランドセントラル駅にて「ジャパンウィーク」が開催されました。日本政府観光局が主催で、今年で6年目となりますが、弊社が初めて、企画、実施・運営の全てを担当させていただきました。

同駅は、ニューヨーク市の北部に広がる全米屈指の富裕エリア、ウェストチェスター郡からコネチカット州までを含めて路線をもつメトロノース鉄道の始発駅、また市営地下鉄も、7番線、シャトル線、4、5、6番線が乗り入れる市内というより全米屈指のターミナルとなっており、1日75万人が乗降するとされています。

そんな多くの人が行き来する同駅のバンダービルトホール(約600平米)において、日本への観光を促進する目的で開催された「ジャパンウィーク」は、日本政府観光局が音頭をとり、日本企業・団体も18社が参加する大きなイベントとなりました。

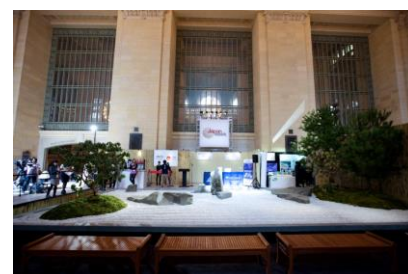
グランドセントラル駅は、交通のハブということもあって、テロを始めとする安全への警戒、対策が最も厳しい建物の一つと言えます。事務局を仰せつかった弊社ですが、鉄道警察や消防当局なども含めて駅側と幾度となく、まるで審査、尋問のようなミーティングを重ねて本番を迎えました。出展者が持ち込む物品には爆発物探知犬まで動員されるような始末でした。

さて、弊社の企画ですが、喧騒あふれるグランドセントラル駅に日本ならではの静寂な雰囲気を作り出したと考え、日本の石庭を中心に据えることにしました。京都から庭師の方々に来てもらい、本場さながらの石庭をつくったのですが、石はニュージャージー、木々はニューヨーク州、苔はペンシルベニア州まで行って見つけてきたものです。グランドセントラルに石庭?という意外性とその精緻な美しさで多くのニューヨーカーを魅了できたのではないかと思います。

また、グランドセントラル駅は、富裕層が通勤で使うメトロノース鉄道の他に、庶民の足である地下鉄の利用者の他、駅の建物自体が歴史的な建造物であり、多くの観光客も訪れます。そういった、地元ニューヨークの人のみならず、多くの人々が押し寄せましたが、とくに、福岡の出汁メーカーである久原本家さん、千葉特産のピーナッツ菓子などを出品された、やますさんなどの食品ブースの人气が高かったほか、旅行情報を扱う旅行代理店、鉄道、エアラインのブース、また日本のインテリアグッズ、手ぬぐい、デジタルカメラなど、伝統からモダンなものまで、幅広く関心が寄せられ、今の日本が紹介できたのではないかと思います。

初めて「ジャパンウィーク」に参加し、物販を行ったA社さんは普段、卸売を中心にされているのですが、「ものすごい数の人が来られるのでとても良かった。また売れるもの、売れないもの、反応がピピットにわかって大変面白い」。消費者との直接の対話、反応に「面白い、興味深い」を連発されていました。やはり、バイヤーは棚の構成など、店舗とその店舗がもつ顧客層や物流など、総合的に考慮したうえで仕入れますが、消費者がその場で気に入れば買ってもらえると、反応がとてもシンプルなのが良かったのだと思います。今年は準備期間も少なく、幅広くお願いはできなかったのですが、来年はぜひ広島企業・団体も参加されてはと申しました。

最後に余談ですが、関西・瀬戸内をフィーチャーするように、というお題が政府観光局から出ていたのもあるのですが、「ジャパンウィーク」のホームページでは、こっそり(さりげなく)広島の宣伝をさせていただきました。平和公園の鶴、宮島の厳島神社がトップページのスライダー画像に出てきますので、よければご覧になってください。<http://japanweek.org/>



グランドセントラル駅に出現した石庭(開催前)



訪れた多くの来場者